

佐々木 史朗君の思い出

7月25日に2ヶ月の闘病後、血液のがんで亡くなったと連絡を受けて驚いた。8回生の中でもダンディーにして真面目人間、木文研究室で小檜山君と一緒に先生の論文作成を手伝うことになる。内容は、ラーメン構造が基礎の不等沈下によって受ける影響を検討するというもの。卒業後40周年誌「続ゴミ箱」への寄稿文で、君はコンピュータ普及以前とあって、手回しのタイガー計算機を駆使したと述べている。1960年卒業後富士鉄に入社、釜石からスタートし、八幡との合併後の新日鉄で、鋼製品の構造材、仕上げ材への活用で実績をあげた。そのエレガントさに似合わずビンテージ物のスクーター、またバイクやグッズを集め、それらが遺品となっているらしい。

我々8回生は、誰名付けるとなくゴミの会を結成し、卒業後も家族ぐるみで仲が良く、当初は国内で、1990年のシンガポール行き以降は海外旅行を交え、恩師をお呼びして一緒に行くことも多くなる。君は学生時代に知り合った夫 美子夫人とは二女をなし、スイス人と結婚したご長女の家をベースにヨーロッパ方面へは訪問を重ね、最後は灰にして縁があったレマン湖畔に散骨の許可を貰った。

東北学院の一年後輩の君が先立つことは寂しい。合掌(平間重義 8回生)